

総合病院 鹿児島生協病院 医局学術誌

医報

Vol.15 2013.3

目

次

巻頭言	総合病院鹿児島生協病院副院長 木田博文	1
-----	---------------------	---

臨床研究

小児リウマチ疾患に対するタクロリムスの検討	嶺崎智子	2
家庭医療について	中村太一	5
当院外科研修の現状と課題	鈴東伸也	8
当院におけるがん性疼痛緩和治療の現状	吉川千華	10
SBT 導入後の評価とこれからの課題	松方和夏	12
救急搬入の現状と今後の課題～CPA 搬入～	吉田祐弥	14
PSG 検査の現状と CPAP の使用状況	富永秀二	18
放射性医薬品過剰投与事件の経緯と当院の対応について	篠原龍太	21

症例報告

経尿道的手術に膀胱内爆発をきたした膀胱腫瘍の1例	白浜 勉	23
冠動脈瘤を伴った、冠動脈の慢性完全閉塞性病変（CTO）の1例	春田弘昭	25
By stander CPR により肝損傷が発生したが、神経学的後遺症を残さず救命し得た 虚血性心臓病の1例	中野 治	29
SAM による左結腸動脈瘤破裂の1例	鎌谷泰文	33
下部消化管穿孔疑いで緊急手術を行った高齢寝たきり女性の1例	鈴東伸也	35
突然発症の心窩部痛で来院した孤立性上腸間膜動脈解離の1例	葉山雄大	37
大動脈三腔解離の1例	尾田新吾	41

著書・論文

向精神薬内服中に発症した肺血栓塞栓症の5例	馬渡耕史	45
急性大動脈解離の臨床像と予後	馬渡耕史	55
胎児心エコー検査：その光と影	西島 信	64
解離性中結腸動脈瘤破裂で発症した semental arterial mediolysis (SMS) の1例	森下繁美	78
鹿児島生協病院における肺癌化学療法の実状	養輪一文	82
ANCA 関連腎炎に甲状腺機能低下症を合併した1例	玉江末広	86
当科における Japanese Pediatric Asthma Control Test (JPAC) を用いた 小児喘息管理	樋之口洋一	90
当科におけるインフルエンザ（H1N1）2009 と小児喘息に関する検討	樋之口洋一	95
内視鏡下手術を行った視神経管骨折の1例	積山幸祐	100

学会発表・抄録		105
著書・論文一覧 / 講演・シンポジウムなど		111
臨床病理症例検討会（2011年4月～2012年3月）		113
投稿規定について・編集後記		226

巻頭言

総合病院 鹿児島生協病院
木田博文



昨年に引き続き、鹿児島生協病院医報「第15巻」の発刊おめでとうございます。医報編集委員や医局の皆さんの協力で完成しました。ごくろうさまでした。

鹿児島生協病院は1975年に旧市民病院27床で開院し、数年ごとに増床を重ね、1986年に226床となっています。2006年日本医療機能評価機構の認定を受け、2008年に療養病棟もでき266床となり、2009年回復期リハビリ病棟ができて306床となりました。同年7月DPC算定病院となっています。2011年には日本医療機能評価機構の認定を更新し、卒後臨床研修評価機構の認定も受けています。

当院は救急病院としての使命があり、旧鹿児島市南部・喜入・松元から川辺・知覧・加世田から救急搬入があります。鹿児島県南部地域の1次救急と2次救急を担っています。また、1976年から医師の卒後研修をはじめ、現在は管理型臨床研修病院であり、内科・外科・小児科・整形外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科およびその関連学会の教育病院または教育関連病院でもあります。このため、学会発表や論文の記載は業務の一環であり、必要なことでもあります。しかしながら、日常業務に追われて学会発表や論文の記載はなかなか難しいところでもあります。私も専門医取得前は学会発表を行ったり、論文も記載したりしましたが、現在は行っていないのが現状です。反省はしていますが、年々業務量が増えてきており、実際には困難です。ですが、若い医師は専門医取得のためにもこれからいっそう頑張ってもらいたいと思っています。特に、研修医や総合内科の若い医師には、学会発表や論文記載、そして認定医や専門医の取得を頑張ってもらいたいと考えています。

我々の医師養成の目標に「総合的力量をもち、一定の専門性も合わせ持つ医師を目指す」ということがあります。このためには、知識・技術をみがき、病院全体のレベルアップをはかることが必要です。そのためにも、学会発表を行い、その中から論文につなげていくことが重要です。そして、そのことが鹿児島生協病院医報の発刊につながっていくと思います。来年も「第16巻」が発行されることを願います。